

### 3 世界地図を利用して生徒に主体的に思考・判断させる授業の展開例

教科(科目)	地理歴史科 世界史 B	単元名	世界史への扉
本時主題	古代地図の変遷と発達について考える (1時間目 / 5時)		
本時の目標	<p>(1) 古代から近代にいたる複数の世界地図の相違や変遷から、作成者やその時代の考え方等を知ることができることを理解し、時代によって世界観に違いがあることを理解をする。 【知識・理解】</p> <p>(2) プトレマイオスの地図と中世の地図を比較し、その違いを表現し、必ずしも時代が下がれば正確になるというわけではないことを理解する。 【技能・表現】</p> <p>(3) 「メルカトル図法」による2枚の世界地図について、それがどこの国を中心として描かれているかを思考し、背景にある海洋国家の覇権争いの事実を推察する。 【思考・判断】</p> <p>(4) 「ピリ=レイス」の地図(製作されたとされる年代には発見されていなかった南極大陸が描かれている)の謎解きから、世界史の学習への興味や関心を高める。 【関心・意欲・態度】</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価
<p>・ 古代の地図を2種類提示し、その違いを捉えさせる。</p> <p>10分(経過時間)</p>	<p>Question 1 「Ga - Sur」と「バビロニアの世界地図」の古代地図をみて、その特徴と相違点をあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Ga - Sur」の地図は自分の生活範囲のみを表しているのに対して、「バビロニアの世界地図」は都市の周り全体の範囲を表していることに注意する。</li> <li>作成された地図から、作成者やその時代の考え方が推察できることを理解する。</li> </ul>		<p>粘土板の説明を見せて、興味関心を引きつつ説明し、発表させる。 【関】</p> <p>評価方法 発問、挙手、発表</p>
<p>・ プトレマイオスの地図から古代にも科学的に地図が描かれたことを理解させる。</p> <p>20分</p>	<p>Question 2 「プトレマイオスの世界地図」をみて、気づいた点とその特徴をあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「プトレマイオスの地図」は地球が球体であることや緯度や経度が記入されており科学的な観察で描かれたことに気付かせる。</li> <li>一方、「キリスト教の地図」「インドの地図」「T Oマップ」「チューリンマップ」等の中世の地図が宗教や神話または憶測をもとに作られたことを理解させる。</li> <li>必ずしも時代が後の方が正確な地図とは限らないことに気付かせる。</li> <li>古代ギリシアと中世の世界の相違をイメージさせる。</li> </ul>		<p>プリントに二つの地図の特徴を記入させる。 【技】</p> <p>評価方法 発問、挙手、発表</p> <p>中世の世界とはどういうものかも考えさせる。意見発表によりイメージさせる。 【技】</p> <p>評価方法 発問、挙手、発表</p>
<p>・ 新大陸の発見に伴う地図上の広がりを理解させる。</p> <p>・ 時代の変化によって地図も大きく変化することを理解させる。</p> <p>45分</p>	<p>「近代の地図」を見せ、アメリカ大陸が記入されていることに注目する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大航海時代以降の世界の急速な結びつきを理解させる。</li> </ul> <p>Question 3 「メルカトル図法の世界地図」の2枚の世界地図を見て、どこの国を中心に描いた地図か、メルカトル図法がどのような目的の地図かについて考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「メルカトル図法」の特徴を理解するとともに、その特徴である方角の正確性が大航海時代を大きく発展させたことについて理解する。</li> <li>1枚目は、大航海時代を先行したポルトガルやスペイン覇権時代の地図。インド航路、大西洋航路に続く、第3のアジア到達航路(北極回り)が模索された事実と結びつける。</li> </ul>		<p>地図に描かれている大陸などを指しながら興味・関心を引きつつ、説明。 2種類の地図がどの方面から見えたものかなど具体的な説明を与えて正解を誘導する。</p> <p>時代背景を理解できるとさらによい。 【思】</p> <p>評価方法 プリント記入(提出) 発問、挙手、発表</p>
<p>・ 歴史を学ぶ楽しさについて考える。</p> <p>50分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ピリ=レイスの地図」から解明されていない歴史の深みや面白さを捉えさせる。</li> <li>次時のスポーツに関するテーマ学習の予告。</li> </ul>		<p>本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。 【関】</p> <p>評価方法 発問、挙手、発表</p>

## &lt; 資料編 &gt;

- 1 「Clay Tablet map from Ga-Sur, 2500 B.C.」 = 「最も初期に名高い地図」  
 URL = <http://www.henry-davis.com/MAPS/Ancient%20Web%20Pages/100D.html>  
 イラクのキルクークサイトの200マイル北で1930年に発見されたもの。大きさは7 . 6 × 6 . 8 cmで手のひらにのるくらいのものである。  
 タブレットの表面は、丘を二つの範囲に分けて、粘土に押し付けられたか引っ搔かれてくさび形の特徴をもって書かれている。自分を中心にその回りを描いたもので、初期の地図はここから始まったといえる。
- 2 「Babylonian clay tablet world map, 600 B.C.」 = 「バビロニアの世界地図」  
 URL = <http://www.henry-davis.com/MAPS/Ancient%20Web%20Pages/103.html>  
 中心に繁栄したバビロンがあり、その回りに全世界を含んだ地域を描こうとした地図で、粘土板に描かれている。粘土板にはユーフラテス川やペルシア湾なども描かれており、バビロンを取り巻くよう「苦い川」があり、そのまわりには7つの海があると描かれている。しかし学者によっては8つの島があったという報告もある。この7つの海の説明についてはそれぞれ楔形文字で書かれており、それぞれ特徴がある。このように考えるとギリシアの地図の概念は、バビロンのそれと違って、自分の世界を取り巻く海は全て未知の世界であることも記されている。
- 3 「プトレマイオスの地図」  
 URL = <file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp%triLNJGH.htm>  
 URL = <file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp%triGKFPF.htm>  
 URL = <http://www2u.biglobe.jp/~KA-ZU/17-1.html>  
 プトレマイオスとは2世紀にエジプトのアレキサンドリアに住んでいた天文・地理学者である。天文書「アルマゲスト」全8巻を著し、大きな影響を与えたものである。  
 彼は地球の大きさの実感を初めて示そうとした学者であり、数学を使い、観測を大事にした人物である。彼の地図は中国の西域まで描かれてあり、全世界の四分の一ほどまでカバーしている。  
 地図の特徴は、赤道の値を過小に見積もったために、アジアが著しく東方に伸びてしまったところと、8000地点もの緯度や経度があげられている所である。緯度や経度についてはどれもが正確であり驚くものである。  
 しかし、プトレマイオス自身の原図は存在せず、この地図は15世紀に再発行されたものである。
- 4 「キリスト教の地図」  
 URL = <file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp%triGEDBE.htm>  
 13世紀に賛美歌の一部に載ったものである。この地図は10 cm × 15 cmの大きさで、挿絵として載っているが中世の世界の捉え方を反映するものとしては面白い。エルサレムを中心に紅海、アフリカ、アジア、ヨーロッパなどが描かれている。
- 5 「インドの地図」「T Oマップ」「チューリンマップ」  
 URL = <http://a-fujituka.hp.infoseek.co.jp/demae2/history-2.htm>  
 7世紀頃の「インドの世界」を描いたものである。大きな亀がいて、その上に4頭の象がいる。その象が世界を支えているという世界観である。  
 「T Oマップ」は10世紀に描かれたもので、エルサレムを中心にT字型に海や川を表し、アジア、アフリカ、ヨーロッパが描かれている。  
 「チューリンマップ」は同じく10世紀頃に描かれたものであるが、地の果てに奇怪な人物が描かれている。どの地図も中世の時代に描かれているが、この時代は地球が丸いことは信じがたいことであり、そのように考えることは悪であるという、地図の暗黒時代である。実際、地の果てには奇怪な生き物や悪魔が住む世界があり、それが何の研究や確証もなく描かれている。
- 6 「メルカトルの世界図」  
 URL = <file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp%triLPKO.htm>  
 URL = <http://www.henry-davis.com/MAPS/Ren/Ren1/406.htm>  
 1569年に描かれたジェラルド＝メルカトルの世界地図である。メルカトル図法で描かれてあり、オランダの勢力の伸張ぶりやこのあとの大航海時代への影響について考える。
- 7 「北方航路の探検と極地図」  
 URL = <file:///C:/DOCUME~1/teacher/LOCALS~1/Tenp%triBDMLP.htm>  
 URL = <http://www.henry-davis.com/MAPS/Ren/Ren1/407.htm>  
 1595年に描かれたジェラルド＝メルカトルによる北極を中心に描かれたシンプルな投影法である。16世紀末に海外進出でスペインやポルトガルに出遅れたイギリスがアジア大陸やアメリカ大陸の北岸を回りこんで中国へ行くという第3の航路ができ上がる。国家の発展と地図の発展を考える上でとても貴重な地図である。
- 8 「ピリ＝レイスの地図」  
 URL = <http://stver.hp.infoseek.co.jp/map.htm>  
 1513年頃にトルコのピリレイスが作った地図。この地図には当時未発見とされていた南極が正確に描かれている。南極は、1818年に正式に発見され、1920年にイギリスとスペインの共同調査の結果、初めてその地形が完全に地図化されたとされている。このためこの地図は、オーパーツの地図といわれる。  
 オーパーツとは英字で書くと「ooparts」、これはOut Of Place Artifactsの略。Out Of Place Artifactsというのは、「場違いな遺物」という意味である。すなわち、その時代にあったはずがないほど、高度な技術や近年の知識が使用されている遺跡や遺物のことである。

< 単元の全体指導計画 >

世界史への扉

単元の目標

身近なものや日常生活にかかわる主題，我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。

各時間ごとの内容

1 古代地図の変遷と発達について考える			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
	古代の地図	古代から近代にいたる複数の世界地図の相違や変遷から、作成者やその時代の考え方等を知ることができることを理解し、時代によって世界観に違いがあることを理解をする。【知】	2枚の地図の違いを気付かせ、発表させる。
	プトレマイオスの地図	プトレマイオスの地図と中世の地図を比較し、その違いを表現し、必ずしも時代が下がれば正確になるというわけではないことを理解する。【技】	地図の広がりや緯度や経度が記されている点を気付かせ、発表させる。
	メルカトルの地図	「メルカトル図法」による2枚の世界地図について、それがどこの国を中心として描かれているかを思考し、背景にある海洋国家の覇権争いの事実を推察する。【思】	中世の世界観を理解させ、記入発表させる。 現代の地図との相違点を捉えさせ、発表させる。
	ピリ=レイスの地図	「ピリ=レイス」の地図（製作されたとされる年代には発見されていなかった南極大陸が描かれている）の謎解きから、世界史の学習への興味や関心を高める。【関】	本時のまとめ プリント提出
2 スポーツの歴史とその発展についての調べ学習の内容決定と予想立て			
	調べ学習のグループ分け	身近にあるスポーツに目を向け、それが歴史の発展と関係していることを理解する。【知】	机間指導をし、生徒の活動を見る。
	調べ学習の内容決定 内容についての予想	身近なものや日常生活にかかわる事柄から、その起源や変遷などを追究させ、歴史的事項の理解に自ら取り組もうとする態度を養う。【関】 インターネットなどを利用し、よりよい情報を収集できる力と、それらを発表しやすいようにまとめる方法を身に付けさせる。【技】	プリントに予想を書かせ、調査項目についてもあらかじめ計画を立てさせる。 プリント提出
3 インターネットを利用したの調査			
	内容についての調査 インターネットを使用	インターネットを利用し、各スポーツの成立や発展、日本への普及などをグループごとに調べる。【技】【関】	机間指導 報告書にホームページアドレスを付記することで、どのアドレスで調べたかなど、その合理性などを評価する。
4 WORDなど文書作成ソフトを使用したの調査のまとめ			
	WORDを利用したの報告書づくり	文書作成ソフトであるWORDを使用してグループごとに分担を決めて報告書を作る。 ・文字飾り、大きさ、センタリングなどの機能 ・コピー、貼り付けなど文書作成の機能 など基本的な報告書作成に関わる統一的な事項も抑えながら簡単な文書作成を行う。【技】【思】	机間指導 報告書の提出
5 発表			
	報告書を利用して報告会を行う。	各グループごとに報告書を利用して発表を行う。報告に関しては今回は前時作成のものを利用する。【技】【思】	机間指導 発表の評価表 (発表者、報告者とも) 自己評価表の提出 単元のまとめ